

2015年度

実践経営学会会報

No.1
通巻 80号
5月発行

実践経営学会第58回大会のご案内

第58回大会実行委員長 夏目 重美

(亜細亜大学経営学部)



ご挨拶

実践経営学会第58回大会は、2015年8月28日(金)～30日(日)の3日間、亜細亜大学（東京都武蔵野市境）において、下記の統一論題のもとを開催されます。

アジアは今、大いなる期待と新たな混迷の時代を迎えています。実践経営学会ならではの多様性と実践性に満ちた、活発かつ実り豊かなご議論を展開していただけましたら幸いです。統一論題に合わせ、中近東文化センターの見学と、『住みたい街ランキング』一位の「吉祥寺のまちづくり実践報告」と自由散策とを企画しております。

多くの方々のご参加をお待ちしております。また自由論題におきましても、多数のご報告をお待ちしております。

【統一論題】

「実践経営の新たな視界を展望する：東アジアから西アジアへの道
—歴史・文化・交易の足跡と今日的課題—」

【解題】

歴史を学ぶことは、現在を知り、未来を切り開くための不可欠の行為です。アジアは今、世界経済の飛躍的発展の核としての大いなる期待と、多様な価値観のぶつかり合う新たな混迷の時代を迎えています。東アジアから西アジアへの道は、数千年の過去から今日まで脈々と続く文明の道でもあります。周辺地域を巻き込みつつ、幾度となく衝突と融合とを繰り返し、人類の限りない進化の過程を彩ってまいりました。世界経済のボーダレス化がますます進展する中で、わが国の経済・企業活動のボーダレス化も避けて通れない新たな数多くの課題に直面しています。このような折、名東孝二先生の本学会創設の理念に思いを馳せ、実践経営の重要性を志向する同志の多様な体験と英知とを結集し、新たな未来への道筋を切り開く端緒といたしました。基調講演は、次の陣容とテーマで行われます。

司会と総括：石川 幸一（亜細亜大学アジア研究所所長）

横澤 利昌（実践経営学会常任理事・元会長）
（亜細亜大学名誉教授）

問題提起： 池田 裕（中近東文化センター常務理事・三笠宮図書館館長）

古代中東の交易 — ソロモンとシバの女王

新妻 仁一（亞細亞大学国際関係学部教授）

日本とイスラム世界

江原 規由（国際貿易投資研究所研究主幹）

シルクロードの過去の若干の足跡と今日的意義について

— 中国の「一带一路」（現代版シルクロード）発展戦略を中心に

野村 亨（慶應義塾大学総合政策学部教授）

東南アジア海域社会に生まれた制海政国家の系譜

— 扶南・シュリーヴィジャヤ・シンガポール

池田裕氏は、古代イスラエル史、特に旧約聖書の研究者です。古代中東の交易について、ソロモンとシバの女王の物語を例示しながらのご講演です。ソロモンとシバの女王は、ユル・ブリンナーの主演映画にもなりました。旧約聖書の物語を紐解きながら、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教等の宗教の根源と、古代中東の交易についてお話しいただきます。古代中東の交易に見られる思想や行為を振り返り、現代の中東地域とわが国との関係をどのように関連付けて考えれば良いのか、津々たる興味を引き起します。

新妻仁一氏は、アラビア語、アラビア文化の研究者です。イスラム世界の実態と日本との関係についてのご講演です。西アジアを語る時、イスラム世界の理解は欠かせません。9.11以降、イスラム原理主義の変化の様相をどのように位置付ければ良いのか。イスラム世界と日本との関係は、今後どのように構築していくべきなのか。世界がIS問題という新たな苦悩に直面する今日、言語と文化研究の側面から、出口の見通しのつかない困難な課題に接近していただきます。

江原規由氏は、中国並びに中国経済の研究者として、また日中政財界人の懸け橋として幅広く活躍なされています。かつて上海万博開催の折には、日本館の館長も務められました。中国の新たな発展戦略として表明されている『一带一路』について、過去のシルクロード沿線地域の足跡と関連付けながら、極めて今日的な中国の情勢と周辺国の動向についてご講演されます。中国の現在と将来を予測する最新の情報を深められるものと期待されます。

野村亨氏は、東南アジア史、特に華僑史、マレー世界史、鉄道史の研究者です。多言語（英語・中国語・マレー語・オランダ語・フランス語・サンスクリット語等）に精通され、幅広い知識と体験の中から、中国、インド、ヒマラヤ諸国を含む広大な地域を包括しつつ、東南アジアの海域社会と国家形成の歴史系譜と今日的意義についてご講演されます。海上のシルクロードともいるべき胸躍る歴史ロマンに浸りながら、この地域と日本の緊密性と重要性を再認識するまたとない機会となるものと期待されます。

なお、司会と総括を担当する石川幸一氏は、東南アジア地域研究、ASEAN経済に関する研究者です。豊富な体験と学識を踏まえ、4人の講師間並びに講師と会場との間の議論を喚起し、統一論題の全体像を総括します。

以上、4人の講師陣とその講演内容の概観、これを取り纏める司会・総括者を簡単に紹介し、統一論題の解題とさせていただきます。中東地域の宗教、言語、文化を理解するとともに、東アジアから西アジアに至る陸上ルートとしてのシルクロード、海のシルクロードともいるべき海上ルート、これら二つの道筋の周辺に生成、発展、衰亡する民族・国家を歴史的に回顧しつつ、日本の現在と未来を展望する機会となることを期待しています。実践経営学会会員諸氏の多くのご参加と、会場における熱い議論の喚起とを期待しております。

【プログラムの概要】

*詳細なプログラムは、6月中にお届けします。

8月28日（金）午後：1. 中近東文化センター見学

2. 「住みたい街ランキング一位・吉祥寺のまちづくり実践報告」と自由散策

夕刻：理事会（吉祥寺）

8月29日（土）午前：自由論題

午後：1. 開会式

2. 統一論題シンポジウム（基調講演・質疑）<前掲>

夕刻：研究・情報交換会 <場所：キャンパス内施設>

8月30日（日）午前：自由論題

午後：総会

【ホテルのご案内】

「実践経営学会第58回全国大会参加」とお伝えください。以下の特別料金の適用となります。
お早目のご予約をお勧めします。

☆吉祥寺東急REIホテル (JR吉祥寺駅南口徒歩2~3分)

TEL : 0422 - 47 - 0109 FAX : 0422 - 43 - 1811

シングル1泊朝食付 ¥11,232

ツイン1泊朝食付 ¥13,492 (1名利用)

¥7,776 (2名利用)

☆リッチモンドホテル東京武蔵野 (JR三鷹駅北口500m徒歩6~7分)

TEL : 0422 - 36 - 0022 FAX : 0422 - 36 - 0020

※朝食は別途¥1,200、価格は日により変動幅あり

ダブル1泊 (1名利用) ¥8,800 ~ ¥12,000

1泊 (2名利用) ¥12,000 ~ ¥14,000

ツイン1泊 (1名利用) ¥9,500 ~ ¥14,500

1泊 (2名利用) ¥14,000 ~ ¥16,000

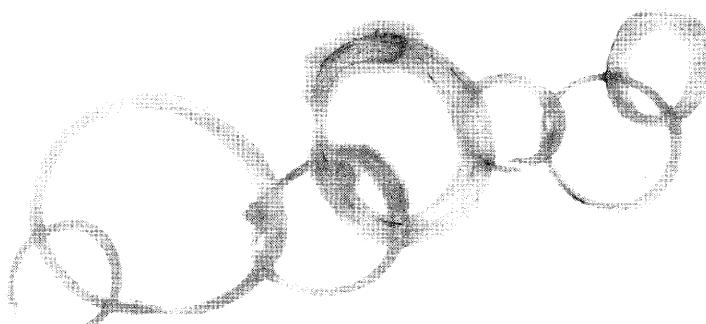
☆ホテルメッツ武蔵境 (JR武蔵境駅東口1分)

TEL : 0422 - 32 - 5111 FAX : 0422 - 32 - 5100

シングル1泊朝食付 ¥8,100

ツイン1泊朝食付 ¥9,900 (1名利用)

¥11,700 (2名利用)



実践経営学会のこれまでの「半世紀」と これからの「半世紀」を思う

実践経営学会会長 井形 浩治（大阪経済大学）



先輩リーダー各位のご労苦に尊崇と感謝の念

昨年度2014年4月に会長を仰せつかって以来、足早に1年が過ぎてしまいました。この一年間を振り返りますに、会長としての初めての全国大会は、前任者の平野文彦先生にご指導いただきながら、北海学園大学を会場に、菅原浩信実行委員長の献身的なご尽力により、すばらしい大会を開催することができました。秋に入りますと、常任理事会を中心に、学会創立50周年の記念事業に関する議論が、次第に大きくなってまいりました。まだまだ構想の段階にありますので、会員の皆さまには、さまざまなアイデアをお寄せいただき、それを踏まえまして計画を立て、成功させていきたいと念じているところでございます。

そうこうしているうちに、『実践経営 第52号』の発刊の準備が始まり、投稿論文の募集、論文査読のプロセス、そして、井原常任理事を中心として、学会誌としての編集・校正・印刷のプロセスが動いていきました。これも間もなく発刊となりますが、このように一つの学会を社会的な責任を強く意識しながら、一貫して継続していくことの大変さを実感しているところです。またこれまでにお引き受けいただいた先輩役職者の方々のご労苦に対しまして、尊崇と感謝の念を強く抱くものでございます。

厳しい状況を乗り切る努力

私にとりましては、新しく役職に就いていただきました副会長、常任理事、理事、各支部長、事務局担当の方々には、常にご負担かけつつも温かいご支援を頂戴いたきましたことは望外の幸せという以外にありませんが、現役の大学教員にとりましては、日々の研究・教育の環境がますます厳しさを増している状況のなかで、学会の運営に、大きな時間を費やすことも徐々にできなくなってきていることも事実としてご理解いただけることかと存じます。そこで本学会におきましては、第50回の全国大会（久留米大学）における会員総会において事情説明と大方の会員の方々のご了解もとで、こうした現状を乗り切っていくためには、事務局機能の充実を図ることで、役員の負担を全体として軽減していくという努力を、着実に進めさせていただいているところでございます。

大学をとりまく環境の厳しさ

加えまして、この4月1日より施行されております「学校教育法」の改正をはじめとする、種々の教育制度の改変は、大学を取り巻く研究環境としましては、必ずしも「順風」ばかりではないことが認識されており、様々な側面で大きな課題も出始めているように見うけられるところです。それは更なる研究活動の推進という観点からは、本学会などの経営学系学会にとどまらず、日本の学会そのものの進展について注意深く見守らねばならない側面といえましょう。

本学会の特色を強めて次の50年へ

実践経営学会は、1967（昭和42）年6月24日に、野間 繁（明治大学教授）、故・名東孝二（日本大学教授）、故・三森茂郎（創価大学教授）、および武田 實（帝京大学教授）らによって創設されました。当然、2年後の2017年には創設50周年を迎えることになります。この「半世紀」は、高度経済成長期の終焉、数回の「オイルショック」、「ドルショック」、「バブル経済とその破綻」といった主要な経済的変動が含まれますし、また第二次世界大戦後の日本経済の牽引された人物、例えば松下幸之助氏、本田宗一郎氏はじめ多くの経営者・企業人も失っています。

さらに、1980年代「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と評価された日本の経済力も国際比較の点から明らかに力を失い、現在では一部産業を除き淘汰も始まりつつあります。

本学会は、創設以来一貫して、学界・実業界・官界において新たな研究分野に挑戦しようとする研究者が集い、理論と実践の調和を絶えず心がけるユニークな学界として注目されてきました。これからの「半世紀」は、いかなる課題に直面し、その解決を「研究」を通じて示していくのでしょうか。次なる「半世紀」を展望し、将来を切り開いていくためにも、本学会では「創設50年」を大きな区切りとして記念事業を構想しつつあります。

今年の全国大会は亞細亞大学で

本年度の全国大会は夏目重美関東支部長のもと、亞細亞大学において開催されることになっており、精力的に開催準備が進められております。研究報告のご予定のある方もない方も、東京・武蔵野市のキャンパスにて多くの会員がお互いに顔をあわせようではありませんか。会員のもつ研究姿勢こそが、次の「半世紀」を展望し、またそのための記念事業に活かされるものと考えております。

新進気鋭の姿勢を失わずに

私の大学院時代の師匠は、「長寿と不老」について語られたことがあります。「長寿」はただ長年「生存」する証しであるが、「不老」は若くて元気なままを意味すると説かれました。その意味におきましては、「長寿企業」と「不老企業」とは、同じ括りにされやすいのですが、我々も我々の研究も、単なる“長生き”でなく、常に若々しく、柔軟で生き生きとしている様が求められているように思われます。

「次なる半世紀」—「身体」は年を重ねても、「目線と頭」は、ますます新進気鋭であるべき、と考える次第です。

今年は、より多くの仲間を増やしていくべき、会員勧誘にご尽力いただければと存じます。会員の多くの皆様、何卒、本年度もご協力のほどをお願い申し上げます。



思い出への感謝

片山 善行

(元・四国大学経営情報学部教授)



このたびは実践経営学会の名誉会員にご推挙賜り身に余る光栄に存じます。お世話になった多くの先生方に、感謝の気持ちをどうお伝えすればよいか、方途に迷っておりましたところ、平野文彦先生より、「実践経営学会の想い出」を綴って貰えぬかとのお誘いを受けました。そこで、誠に身勝手ながら、この紙面をお借りして、井形会長殿はじめ会員の先生方に衷心よりの御礼を申し上げます。

実践経営学会は、私にとりましては、最も身近にお世話になった、最も想い出深い学会であります。私は30余年に亘り企業での国際業務に従事してまいりました。その内16年を海外で過ごし、「戦略子会社」の経営に携わってまいりました。

平成4年春、私の郷里（徳島）の四国女子大学（当時）が共学となり「四国大学」と改名・改組され、新たに「経営情報学部」を新設する運びとなりました。偶々ご縁があり、私もその一端を担はさせて頂くことになりました。当時、実践経営学会会長の要職にあられました名東孝二先生には、四国大学と致しても多大なご助言・支援を賜りました。

これを機に、私は三人の先生方と相前後して実践経営学会に参加させて頂きました。

田中宏先生、安藤三郎先生と竹内準治先生のお三方です。田中先生が経営情報学部の初代の学部長に就任され、学部運営に優れた手腕を發揮され、学部の礎を築かれました。実直で温かい先生のお人柄が、新参者の私に安堵を与えてくださいました。竹内先生は生粋の関西人であり、人生の達人であられます。人生の機微に触れた数々の含蓄あるお話を、親しくお聞かせいただきました。安藤先生は終始仕事に対する真摯な姿勢を貫かれ、日夜論文の執筆に没頭しておられたお姿が印象的でした。先生の研究室には夜遅くまで明かりが灯っていました。多作労作を厭わぬ健筆ぶりに、私も大いに触発された一人であります。

三先生共々、実務畑のご出身であり、種々、ご陶訓を賜りました。

日頃大変お世話になっている実践経営学会への謝意を込めて、全国大会を四国大学で開催しようという話になり、それが実現する運びとなりました。四国では初めての全国大会でもあり、大いに記念すべき想い出となりました。昨今、地方の比較的小規模な私立大学の経営環境は一段と厳しさを増しております。地方大学は、地場の中小企業や身辺の生活関連の仕事（福祉・介護・各種サービス等）に従事する要員の養成に特化し、グローバル展開等に携わる人材の育成はスーパー・グローバル大学（乃至それに準じる大学）の領域とする「棲み分け」が進み、「大学の格差」と「所得の格差」は拡大の途を辿っております。仮令少数なりとも骨太で志の高い学生を中核に確保し、育成し、社会に送り届ける地道な努力が欠かせません。地方大学そして地域社会の盛運がそこにかかるております。

期待しよう、これから日本の若者たち

西村 和義

(三菱マテリアル株式会社社友)
元東京都青少年問題協議会委員



二種類の日本の若者たち

かつて、私が韓国で生まれ育ったご縁から、日韓経済協会並びに日韓産業技術協力財団の専務理事の役割を頂き、日韓両国の各種の民間交流を実施してきたが、その中に、両国の高校生や大学生との幾つかの相互研修活動があった。

その一つに、韓国の大学院の研究人材や産業技術者を選抜し、一年間日本の国公立研究所や企業で長期に研修を受け入れる事業があり、終了して帰国前に各参加者より感想や詳しい研究内容の報告を聞いた。一部の研修生は英語での報告であったが、多くは立派な日本語での報告で、短期間に正確な日本語を身につけるスピードに驚かされると共に、いつも真面目で礼儀正しい姿勢に感心させられた。

ある研修生は、「日本の若い人には、二種類がありますね」と話し出した。「筑波は静かな落ち着いた学園都市ですが、朝早くから、また夜遅くまで、茶髪の暴走族が集まり、周りの迷惑も考えず轟音を轟かせ走り回っており、家族みんなが寝られなくて困りました。しかし、研究所で一緒に仕事をしている若い研究者たちは、みな真面目、目標をキチンと持って、ひたむきに研究を続けられており、親切に時々家庭や旅行にも招いて頂きました。どちらが本当の日本の若者ですか?」との質問をされたことを、今でも思い出す。私は2003年から8年まで、縁あって大田区と東京都の「青少年問題協議会委員」を委嘱され、月一度の会合で多くの有識者や教育関係者と共に、青少年問題の実態と正常化への方策についての論議に参加する機会を頂いた。話題は学級崩壊、不登校や引き籠もり、ニート、フリーターの増加や青少年犯罪の急増と凶悪化、低年齢化など、あまり愉快な討議ではなかった。

青少年犯罪の走りは、落書き、万引き、置き引き、夜遊びなどから始まり、喫煙や飲酒、暴走、いじめ、放火、麻薬、そして最近では、携帯を通じる陰湿ないじめ、売春や誘拐、殺人、そして振り込め詐欺の「出し子」から、自分たちで詐欺グループまで作るなど、ますますエスカレートしている。

ITの進歩を逆手に、パソコン遠隔操作による他人誤認逮捕事件や巧妙な銀行預金詐取事件など、複雑な新しい犯罪も増えてきている。しかも問題は彼らの多くが原因を大人社会のせいにし、それに罪や危険の意識を殆ど持っていないことである。

立派な若者も沢山いる

これまで、若者の特徴について、無関心、自己中心的、集中力不足、限度が分からない、打たれ弱い、我慢ができない、すぐ切れる、物を大切にしない、人との関わりが旨くできない、相手の気持ちになれない、ゲーム感覚、自分の意見を持てない、指示待ち族、チャレンジ精神が弱い、本を読まない、などなど、厳しい評価も少なくはなかった。

また、学会で会う多くの大学教授たちに、就職難が続いたので、学生が真面目に勉強するようになったのではと尋ねると、そういう学生はまだ少なく、多くは大学に入っただけで目標を見失い、余り勉強をしないことをこぼし、同じテーマで日本語での論文を書かせると、トップは留学生、次に女子学生、そして男子学生と、相変わらずこぼしていた。

しかし最近、私は「近頃の若者は…」と嘆くのは止めた。それは、周りの地域にも、メディアでも、学会や研究会でも、立派な若者が沢山いることを強く感ずることが多いからである。

スポーツ界でも、フィギュアスケートの羽生結弦、浅田真央、スノーボードの平野歩夢、平岡卓、水泳の瀬戸大地、萩野公介、山本耕平、渡部香生子、高橋美帆、スキージャンプの高梨沙羅、体操の白井健三、テ

ニスの錦織圭、西岡良仁、車椅子テニス優勝の国枝慎吾、上地結衣、卓球の福原愛、石川佳純、伊藤美誠、バドミントンの山口茜など、殆ど十代や二十代前半の若者が国際的に目ざましい立派な活躍をしている。

大谷翔平、藤波晋太郎などの新人離れの活躍で、プロ野球界も活性化し、遠藤、逸ノ城、照ノ富士など若手の出現と活躍で、停滞を続けていた大相撲界も大きく人気を取り戻している。ゴルフ界でも、石川遼、松山英樹の活躍、女子でも勝、堀、森田の十代トリオの出現により、新鮮な息を吹き返している。

昨年秋の仁川アジア大会では、各種目とも日本の選手たちは予期以上の大活躍を示し、シッカリした目標を持って、ひたむきに努力する若者の美しさに心を強く打たれた。

しかも、これらの若い人たちが、自分の実力や努力を決して誇示せず、常に控えめで、これまで自分を支えてくれた家族や周りの多くの人々に対する、深い感謝の気持ちを語っていることに、いつも感心を超える尊敬の気持ちすら覚える。

ブラジルWカップでは、残念ながら予選で敗退したが、終了後日本の若者たちが揃ってベンチのゴミを集め清掃する姿は、世界に大きく報道され、立派なマナーは「正に金メダル」と高い称賛を受けた。

体育だけでなく、芸術の分野でも、ローザンヌ国際バレーで、日本の高校生が続けて優勝し、国際バッハコンクールで二十歳の岡本誠司君が日本人初の優勝を果たすなど、各地の中学校、高校の音楽活動のレベルも目ざましく向上している。また、数学や化学などの国際科学コンペや技能五輪でも、これまでの立ち遅れからの回復が顕著に見られている。

早くから若者に社会の関わりを

東日本大震災を契機に、若者たちのボランティア活動が一段と盛んになり、進んで被災地を訪問したり、各地域のお祭りにも多くの若者たちが積極的に参加していることが報道されている。

身内のことで恐縮だが、義姉が高齢と障害で歩行困難となり、介護施設のデイサービスやショートステイのお世話を経て、漸く老人ホームに入居することができたが、各施設のお世話頂く若い介護士や看護師の方々の献身的な態度には、頭が下がる思いをしている。

国政選挙で投票年齢を現在の二十歳から十八歳に引き下げるに対する世論調査（6月読売新聞）で、賛成は48%、反対は45%となり、成人年齢を十八歳にすることには59%が反対と回答している。その理由のトップは「まだ十分な判断力がない」というが、果して二十歳以上の日本の人たちがどれ程の良識と判断力を持って行動しているかは、まだ疑問である。

従前に比し、体格も体力も著しく向上しており、早くから社会に触れる機会を増やし、社会性を育み、将来の人生の役割と目標についての自覚を持たせれば、若者の生き方も随分変わってくるのではないだろうか。

最近のNHKの一部の報道には、率直に疑問を感じるものもあるが、「鶴瓶の家族に乾杯」では、まだまだ地方には温かい血の通った老若の明るい家族の姿が見られ、「キッチンが走る！」では、農業、牧畜や漁業などで夢と生き甲斐を持って取り組んでいる多くの親子たちが描かれ、深い感銘を受けている。メディアでは希望の無い産業と決めつけられてきた農業や林業にも、最近若い人材が進んで参加しているとのことで、大いに注目される。

学生たちの一部にも、早くから実社会を学び自分の強みを見つけようという意識が深まり、就業体験や職場体験研修など、インターンシップなどの取り組みが拡大し、企業の現役やOB社員を学校の授業に活用するケースも増えてきている。人材育成について教育界と企業の連携が深まることは、極めて望ましいことである。

また、多くの大学が閉鎖的な象牙の塔から進んで抜け出して、社会貢献として大学の教授と学生がチームを組み、周辺の自治体や地域とも連携を図り、地域の健康増進や活性化、諸課題の解決のため活動を拡げているケースも報道され、これは地域だけでなく学生たち自身の将来の人生のためにも極めて有意義なことだと思う。

長く「若者の技術離れ」が懸念されていたが、近年大学でも専門実務教育が見直されている。また、技能・技術を大切にする工業学校・専門学校の役割に再び高い評価を取り戻す動きがあり、望ましいことである。

若者の育成活用は社会の共同使命

古い話で恐縮であるが、私の大学生時代、当時の学生運動が共産党の指導を強く受けて、極めて公式的でイデオロギー偏重の過激な活動であった。それに対し、強い疑問と批判を感じ、私は多くの友人たちと夏休みを利用し、京都地区の大学教授の協力を得て、地方の農漁村を訪ね、座談会や交流会を中心とした手作りで地道な「帰郷運動」（1952・53年頃）を広く実施したことがある。

また、その運動の反省として、色々な文化や意識の垣根を低くするために、一人一人とのコミュニケーションの重要性を痛感し、多くの若い社会人や学生と京都の大学生との間の文通運動を展開した。溝埋めのささやかな努力に過ぎなかったが、当時のいわゆる上からの左翼運動に対する「一つの問題提起」として、「平凡読者との文通運動」として、幾つかの新聞雑誌で注目を受けたことがあった。このような活動を通じて、むしろ多くを学んだのは、われわれ大学生の方であつたと感じている。

2020年の東京五輪は、「一国一校運動」で直接外国との関係を強める計画も進み、大人だけでなく若者にも外国を知り、会話を学び、通訳やボランティアで案内を担うなど、若者の意識の国際化への絶好なチャンスとなろう。これを契機に、激減している海外への留学が増加に転ずることが期待されると共に、外国の優秀人材や留学生を受け入れ、十分活用できる社会にしたい。

日本のGDPは世界3位を維持しているが、一人当たりのGDPは恐らく20位以下である。この原因は、少子高齢化もあるが、仕事が自分に合わないと簡単に退職したり、働けるのに働いていない若者も意外に多く、日本人全体の働きの効率が低くなってきたためでもある。高齢者や女性、外国人材の活用ももちろん重要であるが、同時に日本の若者に早くから自覚と目標を持たせ、能力や適正、個性を伸ばし、一人一人を存分に意欲と力を発揮させることができることが、長く低迷してきた日本の活性化への近道だと思われる。

経済同友会の提言『2020年の日本創生』（2011年1月）の22頁、「若者がやる気と希望の持てる国」項の中に要約して、第一に、「様々な課題解決を速め、次の世代により良い社会を受け継ぐことは我々の義務。超高齢化が進む中で、高齢者が健康で豊かで自立した生活を送る社会を築くことが、若者たちに過度な負担の集中を防ぎ、若者のやる気と希望を持たせることにつながる」

第二に、「自主・自立・自己責任の精神に溢れた若者が育ち、国内外で挑戦を続け、活躍できる国に。そのためには『出る杭は打たれる』社会ではなく、出る杭を伸ばし、挑戦して成功した人々を称える社会になることが必要。同時に失敗しても再挑戦が可能で、失敗を糧に人が育つような温かい社会であることも重要」との指摘は極めて貴重である。

私も若い社員時代に幾度か失敗をしては、上司に温かくカバーして頂いたり、上手く持ち味を引き出して頂いたり、多くの良い上司に恵まれたことを、今でも深く感謝している。

若い人材の育成と活用は、家庭、学校、地域社会、企業、メディアなどの、正に共同の使命であり、責任である。特にわれわれ企業社会としても、激しい国際競争の中にあっても、強く、厳しく、そして温かい企業社会を目指し、業績重視の人材評価も必要であるが、それに偏り過ぎず、多様で柔軟な人材の育成活用に大きな関心と連携をもって、出来ることは進んで役割を果たしたいものである。

年初、トマ・ピケティ（Thomas Piketty）『21世紀の資本（Capital in the Twenty-First Century）』（2013）が話題になったが、彼の指摘を待つまでもなく、欧米の資金資本主義、ロシア・中国などの国家資本主義、隣の韓国の財閥資本主義のいずれも壁にぶつかり、大きな格差と緊張を生んでいる。今日こそ、我が国の革新的な学者・研究者・経営者が共同して、グローバル化の中でも、人間尊重を基盤とする日本的な新たな資本主義のあり方について、新鮮で強固な理念の確立を強く望みたい。

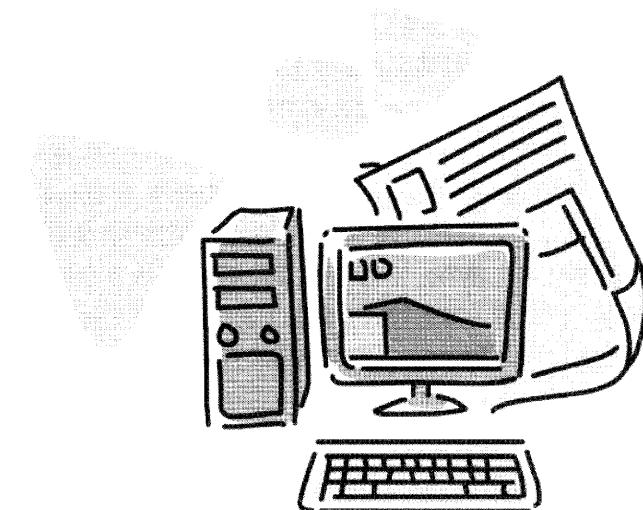
会員の異動（入会・退会）2014.10.1～2015.3.31

入会会員 5名（敬称略）

お名前	ご所属	推薦人	担当 支部	入会日
岡田 一範	高田短期大学助教	松井 温文（追手門学院大学） 中垣 昇（名古屋経済大学）	関西	2014/11/9
寺部 優	早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程 山田秀夫研究室	小坂善次郎（東京富士大学） 岡星 竜美（東京富士大学）	関東	2014/12/2
島田 康人	名城大学都市情報学部教授	雜賀 憲彦（名城大学） 竹内 準治（甲子園大学）	関西	2014/12/2
近藤 博子	法政大学大学院博士後期課程	渡辺 基之（東京国際大学） 横澤 利昌（ハリウッド大学院大学）	関東	2014/12/16
山田 朋美	東京福祉大学大学院	平野 文彦（日本大学） 細沼 謙芳（SBI大学院大学）	関東	2014/12/16

退会者 24名（敬称略）

有田 数士	磯 賢	市川 一夫	内山 早苗	太田 幸夫
梶田 明日美	加藤 久美子	小谷 直也	小林 敏雄	菅澤 喜男
関 晴至	高橋 直也	中川 哲雄	白 雲栄	晴山 俊雄
廣田 伝次郎	藤基 佳男	榎井 猛	町田 小織	三橋 章男
宮脇 敏哉	本谷 るり	山田 悠		



各地での支部活動

本学会では、年次の全国大会開催のほかに、これを補うことを目的として、全国のいくつかの都市に支部が置かれて、適宜、実地研究、研究発表（年に2回程度）、会員相互の交流・親睦等の活動が行われています。

ただし、会員は住居地あるいは勤務地等によって、特定の支部会への所属が義務づけられるものではありませんが、各地域の会員には、活動の予定が、e-メール、又は郵便等の方法によって知らされます。

その他、その時々のHPによってすべての会員に対して周知されます。また開催までに十分な時間が見込める場合には、『会報』にも掲載されます。このことにより、原則として、いずれの支部活動にも、全国どこからでも参加できることになっています。ただし、プログラムの内容や準備の都合上、参加できないこともあります。またその時の天候、交通、その他の事情により、活動が中止または順延されることがありますので、あらかじめ当該支部長にメールアドレス等により、事情をお問い合わせください。

なお、支部会における研究報告は、1年に1回、学会本部から刊行される機関誌『実践経営』への投稿資格の一つとなることが定められています。積極的な参加をお勧めします。

在外会員の方は、本部事務局 jsam.headoffice@gmail.com へお問い合わせください。

北海道支部

支部長 菊池 真一（北海商科大）
連絡先 TEL&FAX : 011-577-9278
E-Mail : jsam.hokkaido@gmail.com

中部支部

支部長 大島 俊一（中部大学経営情報学部）
事務局長 向日 恒喜（中京大学経営学部）
連絡先 ☎466-8666
名古屋市昭和区八事本町101-2 中京大学
TEL : 052-835-7111（代）
E-Mail : jsam.chubu@gmail.com

東北支部

支部長 三森 敏正（石巻専修大学）
事務局長 浅野 浩子（仙台白百合女子大学）
支部顧問 吉田 信一（富士大学）
連絡先 TEL : 0198-23-6221
FAX : 0198-23-5818
E-Mail : jsam.tohoku@gmail.com

関西支部

支部長 田中 敬一（近畿大学）
事務局長 稲田 賢次（大阪学院大学）
連絡先 E-Mail : jsam.kansai@gmail.com

関東支部

支部長 夏目 重美（亜細亜大学）
連絡先 E-Mail : jsam.kanto@gmail.com

中国・四国支部

支部長 小原 久美子（県立広島大学経営情報学部）
連絡先 TEL&FAX : 082-251-9743（小原研究室直通）
E-Mail : jsam.chuugoku.shikoku@gmail.com

北陸支部

支部長 田中 晴人（金沢学院大学）
事務局長 谷畠 範恭（金沢星稜大学女子短期大学部）
支部顧問 水谷内 徹也（富山大学）
連絡先 E-Mail : jsam.hokuriku@gmail.com

九州支部

支部長 伊佐 淳（久留米大学経済学部）
事務局長 増山 正紀（増山人事労務センター）
連絡先 E-Mail : jsam-kyusyu@gmail.com

支部会からのご案内

関西支部会

第65回実践経営学会 関西支部会発表者募集

第65回実践経営学会 関西支部会を下記の要領で開催する予定ですので、ご案内申しあげます。当日の発表希望者を募集しております。発表をご希望される方は、下記連絡先までお知らせください。

記

- 日時：2015（平成27）年6月27日（土）午後1時頃より（予定）
- 場所：流通科学大学5棟・5212室 ※詳しくは、5月下旬～6月初旬に送信するスケジュール案内にてご確認ください。
- テーマ申込締切：5月19日（火）※締切厳守でお願いいたします
 - ・発表をご希望される場合は、以下宛先まで所属、氏名、発表テーマをメールでお知らせください。
 - ・発表者枠には限界がありますので、申込者多数の場合や連続発表の場合は、事務局にて調整させていただきますので、何卒ご容赦願います。

■連絡先（事務局）

メール：inadak@ogu.ac.jp

大阪学院大学経営学部 稲田 賢次 宛

電話：06-6381-8434（代表）

実践経営学会 関西支部会

支部長 田中 敬一

事務局長 稲田 賢次

九州支部会

実践経営学会 九州支部平成27年度第1回研究発表会開催のご案内

さて、下記の要領にて平成27年度実践経営学会九州支部第1回研究報告会を開催いたします。奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

- 日 時：2015（平成27）年7月25日（土）13時30分～17時00分
- 場 所：久留米大学御井キャンパス
- 参加費：1,000円
- 懇親会：午後5時30分～午後7時30分 大学の近所で場所を確保します。懇親会費は別途徴収。
つきましては、当日の報告者を募集いたします。
報告者お一人につき、報告40分・質問20分程度を予定しております。
報告ご希望の方は、平成27年6月10日頃までに、①氏名、②所属、③報告テーマを明記の上、事務局の増山（masakim@wine.ocn.ne.jp）までご連絡ください。
また会員の方であれば、九州支部だけでなく、だれでも報告及び参加できます。参加を予定されます方は、上記事務局までお知らせください。
また、当日は研究報告に引き続き、研究情報交換会（懇親会）の開催も予定いたしておりますので、是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。準備の都合上、ご参加の有無を明記いただきますようお願い申し上げます。
*なお、当日は、報告希望者が少ない場合にも、特別のプログラムを用意して開催いたします。
今から皆様のスケジュールに加えていただきますようお願い申し上げます。
お待ちいたしております。

実践経営学会 関西支部会

支部長 伊佐 淳（久留米大学）

事務局長 増山 正紀（増山人事労務センター）

実践経営学会 第48期 役員名簿 (2015年4月1日～2017年3月31日)

会 長	井形 浩治 (大阪経済大学)
副 会 長	島田 裕司 (駒澤女子大学)
本 部 長	田中 敬一 (近畿大学)
事 務 局 長	吉野 忠男 (大阪経済大学)
常 任 理 事	浅野 浩子 (仙台白百合女子大学) 井原 久光 (東洋学園大学) 中垣 昇 (名古屋経済大学大学院) 平野 文彦 (日本大学) 横澤 利昌 (ハリウッド大学学院大学)
理 事	伊佐 淳 (久留米大学) 稲田 賢次 (大阪学院大学) 大島 俊一 (中部大学) 岡星 竜美 (東京富士大学) 小原久美子 (県立広島大学) 金子 義幸 (関東学院大学) 川野 祐二 (下関市立大学) 菊池 真一 (北海商科大学) 小坂善治郎 (東京富士大学) 後藤 俊夫 (日本経済大学) 田中 晴人 (金沢学院大学) 田中 道雄 (大阪学院大学) 夏目 重美 (亜細亜大学) 名渕 浩史 (有)エヌ・エフェクト 丹羽 浩正 (八戸学院大学) 日野 隆生 (東京富士大学) 平野 賢哉 (東洋学園大学) 藤田紀美枝 (太平洋経営創造大学) 三森 敏正 (石巻専修大学) 村上 則夫 (長崎県立大学)
監 事	田口ヤス子 (日本体育大学) 松尾 敏行 (日本経済大学)

日本学術振興会から以下の通知がありました。

各大学の長

各関係学協会の長殿

独立行政法人日本学術振興会

理事長 安西 祐一郎(公印省略)

第6回(平成27年度)日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦について(通知)

本会は、天皇陛下の御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、本会では、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することを目的として、平成22年度に「日本学術振興会育志賞」を創設しました。

つきましては、この度下記により、第6回(平成27年度)を実施することとなりましたので、受賞候補者のご推薦をお願いいたします。

※女性候補者について積極的に推薦いただけるようご検討をお願いいたします。

記

1. 対象者

平成27年4月1日現在34歳未満であり、次の①又は②に該当する者であって、平成27年5月1日において我が国の大学院博士後期課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する4年制の博士課程を含む)に在学している下記のいずれかの条件を満たす者

①大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる大学院生であって、当該大学長から推薦された者

②①に相当する大学院生であるとして所属する学会長から推薦された者

また、海外からの留学生で大学院博士後期課程に在学する者についても、推薦することができます。

※推薦に当たっては、論文等の業績のみにとらわれず、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な者を多様な観点から推薦願います。

2. 総授賞数

本会が設置する選考委員会において16名程度選考します。

3. 受付期間

平成27年6月10日(水)～6月12日(金)17:00(必着)

4. 提出先

〒102-0083東京都千代田区麹町5-3-1

独立行政法人日本学術振興会

人材育成事業部研究者養成課「日本学術振興会育志賞」担当

TEL03-3263-0912 【URL】<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>

※様式は上記HPよりダウンロードしてください。

※推薦募集ポスターも上記HPよりダウンロードすることができます。

事務局からのご連絡

■ 住所・勤務先などの変更届のお願い

住所や勤務先、メールアドレス等が変更となった会員の方は、
jsam.headoffice2@gmail.com（会員情報管理専用メールアドレス）までご連絡ください。

■ 第48期 会費納入のご案内

間もなく、第48期の会費納入のご案内を皆様にお届けしますので、よろしくお願ひいたします。
(6月中の予定)
学会活動は会員の会費によって支えられております、全国大会および各地域支部会における報告資格は、「年会費を納入済みの会員」となっております。ご留意ください。
お問い合わせは、jsam.headoffice2@gmail.comまで。

■ 各支部からのご連絡などは、学会ホームページをご覧ください

実践経営学会ホームページ（<http://www.jsam.org/>）では最新情報を随時掲載しております。
各支部からの情報は、ホームページをご活用ください。

■ 全国大会の詳細について

詳しい内容は本会報次号でお知らせいたします。

実践経営学会研究者倫理綱領

実践経営学会は、学術研究の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に良心と信念にしたがって、自らの責任で行動しなければならないという考え方方に立って、以下の通り「研究者倫理綱領」を定める。

— 2008.9.13 実践経営学会会長 平野 文彦（日本大学） —

A. 研究の課題について

- 常に「世界の平和」、「人類の福祉」、「社会の発展」および「物心両面からの豊かな社会の実現」に貢献するための公共的・公益的使命を意識すること。
- 常に「宇宙と地球の資源」、「社会の資源」および「人的資源」の持続可能な利用を意識すること。

B. 研究の姿勢と方法について

- 常に「生命倫理、人権の尊重、および動物愛護の精神」を踏まえた「高潔な信念」、良心と正義、および「社会的責任感」を確立すること。
- 常に「法令遵守の意識」を持つことはもとより、常に「社会正義」に寄与すること。
- 常に、「正直で、恥じることのない行動」をとり、「誇りと品性」を保つこと。そのためには、研究のデータのねつ造、偽造、論文の剽窃などを行わないこと。個人の見解と他者の見解を明確に区分するとともに、自己の見解には責任を十分に自覚すること。

C. 研究の環境について

- 常に、自由で開達な研究行動が円滑に進むよう、研究環境の改善に努めること。研究の条件や環境が不足していることを理由とした不十分な研究は許されない。

2008.9.13 常任理事会決定
同日、理事会および会員総会承認
以上

実践経営学会 JAPAN SOCIETY FOR APPLIED MANAGEMENT

発行日：2015（平成27）年5月31日

発行者：会長 井形 浩治(大阪経済大学)

編集責任者：本部長 田中 敬一(近畿大学)

発行：〒533-8533 大阪府大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学経営学部内

FAX: 03-3219-3455 E-mail: jsam.headoffice@gmail.com

制作：(株)マインド